

意見の概要と市の考え方 (パブリックコメントでのご意見等)

1 河川改修に関するもの (14 件)

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P28	数沢川の北側公用車駐車場と平沢川北側 JX 寮南東余剰地に「貯水立坑」を設置し、溢水流量減の対策をしてはどうか。	1	溢水量減の対策については、2つの河川の上流域に調節池を整備するなどの中長期的施策について、現在策定中の「日立市流域治水計画」に位置付けるものとします。	【参考】
P28～33	河川の合流地点に超音波水位計を設置し、監視・警報発報システムを構築してはどうか。	1	監視システムについては、実施について検討していきます。	【参考】
P28	ボックスカルバートが 168 mm/hr の降水で満水になることが予想されているのなら、ボックスカルバートを拡大または 1 本増設して排水能力を上げてはどうか。	3	<p>水害リスクの軽減には、河川改修や遊水地等の施設整備が重要であることは十分に認識しています。</p> <p>しかしながら、168 mm/hr に対して、庁舎敷地で溢水させずに全てを流すことは、庁舎及び周辺地の浸水を軽減するための河川改修が下流域の水害リスクを高める結果となります。</p> <p>今回の庁舎安全対策は、即効性のある河川合流部の改修を行い、溢水量を出来るだけ減らし、治水安全度を少しでも向上させるとともに、建築物（庁舎）では溢水した場合の被害を減らす対策を行うとする「流域治水」の取組みを推進するものです。</p>	【参考】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P28	平沢川の断面図およびボックスカルバートの断面図を追加すべきである。	1	平沢川についても、数沢川と同様に掘り下げることから、P28に平沢川の断面を追加し、ボックスカルバートの断面寸法を追記します。	【意見反映】
P13、 P28～33	庁舎建設時において、ボックスカルバートの最大流量(m ³ /秒)は幾らと評価され施工されたのか確認したい。	1	国の河川規模に応じた整備基準の降雨確率規模 10 年としており、合理式・等流計算で推算した結果、77m ³ /秒でした。 敷地内をボックスカルバートにすることから、国の基準のとおり 30%割増した 100m ³ /秒で施工しています。	【その他】
P13、 P28～33	今後の気候変動を考慮した 10%割り増しの 168mm/hr の降雨に対して合流地点下流部での流量(m ³ /秒)は幾らと評価しているのか確認したい。	1	168mm/hr 降雨時のシミュレーションにおける合流地点下流部の流量は、約 120m ³ /秒と推算しています。	【その他】
P13、 P28～33	令和 5 年の台風 13 号に伴う線状降水帯発生時において、宮田川の各所で流木で更に水位が増し、異常水位上昇となって付近の住居が冠水するという災害になった。同様の事態は平沢川・数沢川の合流地点後でも発生すると考えられるため、この点についての見解と、対策要否について確認したい。	1	河川への流木等の障害物の流入防止については、数沢川・平沢川だけではなく、全国の河川に共通する課題であると認識しています。 まずは、山間部からの間伐材や伐採材、市街地ではゴミなどを流さないよう、土地所有者などが適切に管理することが重要であり、土地所有者などへの注意喚起や治山対策など、現在策定中の「日立市流域治水計画」に位置付け、推進していきます。	【参考】
P13、 P28～33	断面形状を変更し、河床を下げ、そのすぐ下流部で断面積を急減少すれば水位上昇し、溢流の方向となる。断面は漸減するのか。	1	数沢川・平沢川の合流部の改修については、合流部での水位上昇を見込んだ断面形状としているため、合流部の断面は減っていません。	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P13、 P28～33	<p>① 被災当日は数沢川・平沢川ともに溢水していた事実からも、ボックスカルバート入口に余裕があったとする見解は疑わしい。現実には合流部で異状事態が発生し溢れたと考えられる。</p> <p>② 両河川の上流部の流域も含めて、合流部にどれ程の流速・流量等が押し寄せ、庁舎を襲ったのか再検証すべきである。</p> <p>③ 合流部をT形からY形に改修しても、根本的な解決にはならない。</p>	1	<p>今回の数沢川・平沢川の溢水要因は、計画規模を超過する降雨により、合流部で2つの水流の衝突による水位上昇であることが確認されており、即効性のある対策として、合流部の改修に行い、ボックスカルバートの流下能力を最大限活かすことを目的としています。</p> <p>また、中長期的な対策として、上流域に調節池を整備する等、溢水量を出来る限り減らし、治水安全度を向上させ、さらには建物（庁舎）側では溢水した場合の被害を減らす対策を行うという「流域治水」の取組みを推進するものです。</p>	【その他】
P13、 P28～33	<p>河川合流部の改修を補うために二線堤及び導流堤を整備するのか。</p> <p>既計画の改修案は活かしつつ、平沢川のバイパスルート（ボックスカルバートへ）を作ることで合流部への流水量自体を減らすなどの対策を検討してほしい。</p>	1	<p>ご意見の対策については、合流位置がボックスカルバート内に新たに追加となるだけであり、合流部の流量を減らすことにはならないと考えています。</p>	【その他】
P28	<p>河川合流部の河床幅を広げ、地球温暖化による雨量の増加に備える必要がある。併せて、平常時の利便性・安全性向上のため、河川合流部に蓋を掛け、歩行者導線を確保するとよい。</p>	1	<p>数沢川・平沢川の合流部改修は、2つの河川の幅をボックスカルバートと同じ幅に広げています。</p> <p>また、合流部に蓋を掛けることについては、維持管理面を考慮し、開渠部における改修としています。</p>	【その他】
P25	<p>計画書には二線堤を片側のみ整備する理由についての記載がない。片側みの整備では溢水量を減らす効果はあまり期待できないと思う。</p> <p>前回の降雨（97 mm/hr）に対して庁舎外周の止水壁等の対策に頼る必要の無いよう、溢水量そのものを少なくすべきである。そのため、二線堤を両岸に整備することを提案する。</p>	1	<p>二線堤は、庁舎の西側に水が流れてこないようにするための対策で、両岸に二線堤を整備しても、溢水量を少なくする効果はありません。</p>	【その他】

2 庁舎浸水対策に関するもの（10件）

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P34～35	（図 24 及び図 26）止水壁により、市民はどこを歩くことになるのか不明であった。	1	止水壁の建物側、駐車場側のどちらも通行は可能です。	【その他】
P34～36	河川の溢水により、ある程度の流入はやむを得ない。庁舎外周に止水壁等を整備することで、近隣住宅等に流出する恐れがある。よって、地下駐車場以外の止水壁の整備は不要である。	1	防災拠点としての機能を維持し、災害対応業務等を継続できるよう、庁舎内への浸水を防止する必要があることから、国のガイドラインに基づいた止水壁を庁舎外周に整備します。 なお、シミュレーションの結果、止水壁を設置しても、庁舎東側における水位上昇などは見られないことを確認しています。	【その他】
P34～35	アクリル板はガラスに比べ 10 倍以上の強度がある。また劣化しにくい素材で、使用条件によっては、10～20 年程度の耐久性がある。 今回の使用条件で寿命を何年と想定し、何年ごとに交換する考えか。またボラードは車両の漂流対策のように見えるが、間隔が広いため、流木が衝突した時の強度をどのように考えているのか。	1	アクリル板は、高速道路や河原子海岸、大洗海岸、四倉漁港等の日差しが強力な海辺において津波対策として使用実績があります。 アクリル板の耐久性能は、20 年で 10%程度の強度低下が見込まれるものの、十分な強度を有していることが、高速道路の各種性能試験により確認されています。 流木の衝突については、メーカーによるアクリル板の性能試験結果において、十分な強度を有していることが確認されています。	【参考】
P38～39	污水排水管の逆流防止対策①に対しては、手動ではなく水位計による自動動作にすべき。対策②に対しては、排水ポンプを多数増設して、緊急排水貯留槽と雨水排水槽の水をくみ上げるべき。このときの放流先を地上にして、入ってくる水以上に排水することが重要。排水ポンプを停止することは絶対避けるべき。	1	污水の逆流防止対策については、自動動作も検討しましたが、小石や枝などが挟まった場合なども想定できることから、有識者の意見を踏まえ、最も確実に閉塞できるよう業務継続計画に定め、逆流が始まる前に職員が切替え作業を行うこととしました。 庁舎の污水は、排水先の公共下水道が満水の間は、排水ポンプを停止し、緊急排水貯留槽に一時的に貯めます。 雨水排水槽に貯まった雨水は、切替弁を設けて、地上への排水を継続します。	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P29	<p>導流堤の開口部が広いため、庁舎北側よりも庁舎西側に沿った流れの方が強くなると予想される。この場合、南側の地下進入路入口のスイング式ゲートの負担が大きくなり、不安が残る。</p> <p>このため、二線堤を河川からなるべく離れた位置に設置し、導流堤と連続化させることを提案する。なお、開口部にはゲートを設置して、交通を確保する。</p>	1	<p>168mm/hr の降雨シミュレーションの結果を用いて、有識者の意見を踏まえ、最も効果的に水の流れを誘導できる位置に導流堤を配置しました。</p> <p>この結果、庁舎西側への浸水深が下がり、地下進入路に設置するスイング式止水板の負担も軽減されます。</p> <p>なお、地下進入路出入口には、スイング式止水板に加え、浮力式止水板を設置して二重の浸水対策を行います。</p>	【その他】
P34	<p>止水壁設置後に市役所が孤立化しないよう、対策を検討した方が良い。</p> <p>庁舎外周の止水壁設置後は、洪水中はもとより水が去った後も泥水等が堆積し、出入りに支障が生ずるため、当面は可搬式の階段等を備え、将来的には庁舎の2階以上の階から敷地外へ出られる橋などを整備すべきである。</p>	1	<p>168 mm/hr の降雨シミュレーションの結果、溢水による大量の河川水は庁舎東側(国道6号側出入口)に回り込まないため、職員や来庁者の通行が一定程度確保できると考えています。</p>	【その他】
P48	<p>免震層の止水化対策において、オイルダンパーの止水壁だけで対策は十分なのか。電気配線は大丈夫なのか。</p>	1	<p>建物の構造から、配線を分断するような大きな流木等が流れ込まないことから、オイルダンパーの止水対策のみとしています。</p> <p>なお、今回の浸水により、免震層が満水となりましたが電気配線に損傷等はありませんでした。</p>	【その他】
P34	<p>庁舎に流れ込む雨水の量を減らすため、本庁舎南側の道路の側溝を拡張して国道6号にもっと雨水を流すようにすべきではないか。</p>	1	<p>シミュレーションの結果、本庁舎南側の道路から庁舎敷地に一定量の雨水が流れ込むことは想定しており、それを踏まえた浸水対策としています。</p>	【その他】
P34	<p>緊急時に水を流すために、地元企業の地下道を活用(整備)すると良いのではないかと。多額の費用や企業との協議は必要だと思うが。</p>	1	<p>地下道は、国道6号付近で上り勾配となっている箇所があるほか、地下道の終点が河川に接続していないなどの課題があります。</p> <p>また、老朽化も進行しており、活用にあたっては、費用対効果を踏まえて検討する必要があります。</p>	【参考】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P34	バリアフリーのためとはいえ、段差を無くし過ぎたのではないか。段差を設けるべきといった意見は、ワーキングで出なかったのか。	1	ワーキングでは有識者から、1,000年確率の浸水対策を優先して、市民の日常利用(バリアフリー)に支障が出ることはないよう、配慮が必要との意見があったため、これを踏まえた計画としています。	【その他】

3 シミュレーションに関するもの(3件)

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P32	168mm/hr 降雨時のシミュレーション結果、P32 図 21、図 22 に地点イ、地点ウ、地点エの浸水深を明記し、二線堤・導流堤整備前後でも国道 6 号上の浸水深(0.8m)に変化がないことを示すべき。	1	図 21、図 22 に浸水深を追記して、対策前後に変化がないことを明示します。	【意見反映】
P32	ボックスカルバートの排水制限により、河川改修・二線堤・導流堤を整備しても水が溢れるという結果について、168 mm/hr の降水に対して対策したとは言えない。対策後は図 23 の浸水深が、どの地点でもゼロになるのが本来のありべき姿である。	1	<p>水害リスクの軽減には、河川改修や遊水地等の施設整備が重要であることは十分に認識しています。</p> <p>しかしながら、168 mm/hr に対して、庁舎敷地で溢水させずに全てを流すことは、庁舎及び周辺地の浸水を軽減するための河川改修が下流域の水害リスクを高める結果となります。</p> <p>今回の庁舎安全対策は、即効性のある河川合流部の改修を行い、溢水量を出来るだけ減らし、治水安全度を少しでも向上させるとともに、建築物(庁舎)では溢水した場合の被害を減らす対策を行うとする「流域治水」の取組みを推進するものです。</p>	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P32	<p>シミュレーションの条件について、台風 13 号（国が定めた 153 mm/hr と気温上昇時の係数 1.1 倍）から 168 mm/hr を最高としている。</p> <p>「電源部を地下に置く」という重要な判断との関係でこの数値のままでいいのか。国の定めだけでなく、広く民間有識者の意見、今後の気象変化の激化方向をみた主張があるのではないか。</p>	1	<p>浸水状況・原因の分析及び安全対策の妥当性について、有識者による第三者の客観的な評価を行い、氾濫シミュレーションによる解析手法を用いて対策の効果について慎重に検討を進めました。</p> <p>168 mm/hr という豪雨の想定は、全国的にも例がなく、現状でこれ以上の対策を求めることは現実的ではないと、有識者委員から意見がありました。</p>	【その他】

4 電源設備に関するもの（11 件）

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P44	<p>浸水対策を実施することで地下に電源設備を置くことを国は認めているとあるが、既設置時にも浸水対策を検討したと思われる。結果として浸水被害を受け現在も作動しない状況であるため、やはり浸水リスクの低い復旧案を採用すべきと考える。</p>	2	<p>工事難易度、工事期間、費用等を踏まえ、浸水リスクの低い屋上移設案と地上移設案も検討しましたが、有識者によるワーキングにおいて、「水害を優先するあまり、地震時における被災リスクをおろそかにすべきではなく、現位置で地震対策としての機能を残しつつ、多重防御をすることにより、庁舎内を浸水させないという案が一番適している」との結論で一致したことから、地下 1 階復旧案を採用しました。</p>	【その他】
P40～44	<p>電源機能が麻痺し、災害拠点としての機能が果たせなかったことが問題である。よって、ある程度、浸水しても電源を失わないよう、国土交通省河川整備局が採用している耐水・防水電源局舎を取り入れ、既存の電源設備を死守してはどうか。</p>	1	<p>耐水・防水電源局舎についても検討しましたが、既存の電気設備が大規模であること、免震構造による電気配線の予備空間の必要性、非常用発電機の既存の煙突等との関係により、電源設備を完全に防水化することは難しいという結論に達しました。</p> <p>そのため、国のガイドラインに基づいた河川の溢水対策を多重に行うことにより、有識者の総合的な知見のもと、地下 1 階復旧案を採用しました。</p>	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P42～44	<p>確かに①屋上移設案はコストがかかりすぎることは理解するが、③現位置（地下1階）復旧案ではリスクがありすぎる。②地上移設案でもっと対策費がかからない案を検討すべきである。</p> <p>P.42の図33では庁舎のすぐ横に移設するから、1階は浸水リスクを考慮して2階以上に電源設備を移設するため、4階建ての建物になってしまう。庁舎の周りがある駐車場（看護学校周りの駐車場）は庁舎より標高が高く、浸水リスクがない。ここに1階建てか2階建ての建物を立てて、電源設備を移設して、コストを下げる案はどうか。</p> <p>このとき問題になる電源ケーブル、制御ケーブル、配線について、数沢川をまたいでケーブルを引くことは技術的に可能である。費用はかかるが、P44の表5にある55.6億円もかけないで対策する案をもっと深く検討すべきである。</p>	1	<p>看護学校協の駐車場へ移設する案も検討しましたが、次の理由により見送りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当敷地と庁舎敷地は河川で分断されているため、高圧幹線及び低圧幹線のいずれも河川を横断する必要があり、素案で示した地上移設案よりも更に工事期間と費用を要します。 ・幹線の距離が長くなることで、地下埋設、高架方式のどちらを採用しても大地震時に損傷するリスクが高まります。 ・非常用発電機を動かすために必要な燃料タンク（25,000ℓ）を新たに埋設する必要があり、さらに建設コストがかかります。 	【その他】
P44	<p>概算見積りの根拠が理解できない。重要な最終判断への条件だが、一步踏み込んだ内容が要る。工期・費用からして現在の地下復旧方式ありきの結論になっていないか。</p> <p>地上移設の場合、設備専用の構造・建屋・耐久性でよい。その視点で十分コスト低減や長期メンテとその累積費用圧縮等検討を万全にしての数値か。（特定の業者や専門家の主張・根拠については客観性、第3者第4者の見解も必要となる）</p>	1	<p>本計画の策定に当たっては、客観性を確保した効果的・効率的な検討を進めるため、「本庁舎浸水対策に関する在り方検討ワーキング」において、各技術分野（河川・建築・建築設備・災害対策）の有識者のほか、設計、施工者も含めた、様々な角度から検証、検討しています。</p> <p>電源設備の復旧位置の検討についても、当ワーキングにおいて建物の制約条件、工事の難易度、工事費等の比較検討を行い、有識者の知見の下で現位置復旧案が最適であると、総合的に評価されました。</p>	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P44	地上移設案「工期 5.5 年、概算費用約 55.6 億円」とあるが、余りにズサンな見積りだと思う。(どういふ方法でここらとった見積りなのか理解不能)	1	「日立市本庁舎浸水対策に関する在り方検討ワーキング」の構成員である庁舎施工業者が概算費用を算出しています。精度の高い工期・費用を出すには詳細設計を行う必要があるため、本計画においては概算となっています。長期で高額な工事となる理由については計画書に記載のとおりです。	【その他】
P40～44	評価案②地上への移設を優先すべきと考える。少なくとも非常用発電機は地上にも追加して 2 重で対応すべき。	2	地上移設案も検討しましたが、浸水リスク及び工事難易度、工事期間、費用等を総合的に評価し、地下 1 階復旧案を採用しました。 なお、非常用発電機のみ地下階からの移設についても検討はしましたが、庁舎内への電力供給は、受変電設備を介することとなるため効果が少ないと判断しています。	【その他】
P42	(ウ) 費用増加とあるが、現位置(地下 1 階)復旧案における止水板による対応は 100%完全とは言えず非常にリスク大である。その際、再度の復旧対策に費用がかかる。	1	工事難易度、工事期間、費用等を踏まえ、浸水リスクの低い屋上移設案と地上移設案も検討しましたが、有識者によるワーキングにおいて、「水害を優先するあまり、地震時における被災リスクをおろそかにすべきではなく、現位置で地震対策としての機能を残しつつ、多重防御をすることにより、庁舎内を浸水させないという案が一番適している」との結論で一致したことから、地下 1 階復旧案を採用しました。 なお、止水板による浸水対策に加え、万が一地下に溢水した河川水が流入した場合に備え、止水扉、排水ポンプ等の多重の対策を行うことで、電源設備を守ることとしています。	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P40～44	<p>地上案となると、新たに設備棟の建設が必要。屋上設置が望ましい。</p>	1	<p>工事難易度、工事期間、費用等を踏まえ、浸水リスクの低い屋上移設案と地上移設案も検討しましたが、有識者によるワーキングにおいて、「水害を優先するあまり、地震時における被災リスクをおろそかにすべきではなく、現位置で地震対策としての機能を残しつつ、多重防御をすることにより、庁舎内を浸水させないという案が一番適している」との結論で一致したことから、地下1階復旧案を採用しました。</p>	【その他】
P44	<p>ニュース等で新庁舎をつくる時に水害を考慮し電源設置は地上に作った方が良いのではという意見が出ていたことを知った。電源設備が地下でなかったら、R5.9月の豪雨の被害はもっと小さく、災害対応もスムーズにできたのではないか。</p> <p>年々豪雨の回数が多くなっている近年、電源設備は地下のままで大丈夫なのか。工事費等の問題はあがるが、また水没という事態が起きないよう、お願いしたい。</p>	1	<p>工事難易度、工事期間、費用等を踏まえ、浸水リスクの低い屋上移設案と地上移設案も検討しましたが、有識者によるワーキングにおいて、「水害を優先するあまり、地震時における被災リスクをおろそかにすべきではなく、現位置で地震対策としての機能を残しつつ、多重防御をすることにより、庁舎内を浸水させないという案が一番適している」との結論で一致したことから、地下1階復旧案を採用しました。</p> <p>なお、止水板による浸水対策に加え、万が一地下に溢水した河川水が流入した場合に備え、止水扉、排水ポンプ等の多重の対策を行うことで、電源設備を守ることとしています。</p> <p>また、浸水対策については、国が定める1時間当たり153mm/hrの国内最大級の豪雨による浸水リスクに加え、今後の気候変動を考慮して、10%割り増した168mm/hrの降雨に対しても庁舎機能を継続することを目標としています。</p>	【その他】

5 庁舎周辺地域に関するもの（4件）

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P58	<p>168mm/hrの被害想定について、「庁舎周辺地域」として、今回の被害があったところも考慮していただきたい。</p> <p>今回の検討ワーキングメンバーは市役所庁舎しか目に入っていないように感じた。</p>	1	<p>庁舎東側の浸水は、河川からの溢水だけではなく、周辺地や道路を流れてくる地域排水も含まれます。</p> <p>庁舎東側の浸水対策については、現行制度の防水板設置助成のなどを含め、現在策定中の「日立市流域治水計画」で位置付ける対策案を示していきます。</p>	【その他】
P58	<p>上流域に調整池を整備する計画案は、2つの河川の溢水対策として、大変、効果が大きいですが、具体的な整備内容、規模、施工工程等の詳細の説明が無く分からない。</p> <p>是非、今回の安全対策計画(素案)に加えて、同時に推進して貰いたい。</p>	1	<p>庁舎周辺地域における対策である上流域に調整池を整備する計画については、中長期的な取組みとして、今後、具体的な整備内容、規模などの検討を進めていきます。</p>	【参考】
P31	<p>国道6号の浸水深が0.44mとしているが、普通の乗用車等は通行不可能となる。また、市南北の交通が分断されるばかりでなく、市役所北側に位置する市消防本部の活動にも支障をきたす。さらに、国道6号東側の住宅地の湛水も見られる。前回の降雨(97 mm/hr)に対しての目標としては、もう少し安全度を高く(例えば0.30m以下、出来れば0.10m以下となるよう)設定すべき。</p> <p>このため、前回の降雨(97 mm/hr)に対する目標への対策案として、庁舎北西部の駐車場と南西側(看護学校東)の臨時駐車場や国道6号西側の広場等を段階的に掘下げて、遊水池化することを提案する。</p>	1	<p>溢水量減の対策については、2つの河川の上流域に調節池を整備するなどの中長期的施策について、現在策定中の「日立市流域治水計画」に位置付けるものとします。</p>	【参考】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P34	将来的に、計画目標（168 mm/hr）への対応として、庁舎以外の全ての敷地（駐車場等）の地下を立体的な地下調整池とすることを提案する。	1	国内最大の降雨を更に割増した 168 mm/hr の降雨に対して、庁舎敷地を地下調整池とすることも検討しましたが、溢水量が膨大であるため、地下で貯留することは極めて困難です。 そのため、今回の庁舎安全対策は、即効性のある合流部の改修に行い、ボックスカルバートに最大限流することとし、中長期的な対策として上流域に調節池を整備して溢水量を出来る限り減らし、治水安全度を少しでも向上させることとしています。 そのうえで、庁舎側、建築物では溢水した場合の被害を減らす対策を行う「流域治水」の取組みを推進するものです。	【その他】

6 その他（11件）

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
全体	今回の素案は、不十分な対策と言わざるを得ない。本来なら大屋根の下は市民の避難場所となるところで、そこに 0.8m の浸水があるとしたら、市民は安心して避難できない。検討ワーキングメンバーは電源設備を守ることに腐心し、市民を守る視点が欠けていると感じる。 P22 の基本理念にある「庁舎に求められる機能を損なうことなく、水害に対する防災拠点機能の強化を図ります」の中の「防災拠点機能」の中に「避難場所」も含まれているはずである。	2	災害時には、地域防災計画やハザードマップにおいて定める避難所を使用することを原則としてお願いします。 ただし、本庁舎は、物資の配送拠点としての機能を有していることも踏まえ、急な集中豪雨等により、再度、河川の溢水が生じた場合でも、本計画に基づいた多重の浸水対策により、庁舎を浸水被害から守り、来庁者を安全に避難・誘導できるよう業務継続計画に定めていきます。 なお、一般的に防災拠点機能には避難場所としての機能も含まれますが、本庁舎は避難場所には指定していません。	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P3	<p>現本庁舎も防災拠点として、巨額の費用で建設した。結果として、こうなった原因は当初の設計目標に誤りがあったのか。その原因分析はどのようにしたのかわからない。</p> <p>H24.9月の基本計画のどこに誤りがあったのか、計画時点の分析が不十分では。今回大丈夫とは誰が保証するのか。</p>	1	<p>新庁舎建設事業完了後の令和2年6月に国の浸水対策ガイドラインが策定されたことから、ガイドラインに準じた浸水対策には対応できていませんでした。</p> <p>今回の教訓として、国の基準(153 mm/hr)を上回る降雨があった場合でも、庁舎機能を継続できるよう国のガイドラインに適合した対策を行うことを基本として、有識者の知見による検討を行い、その結果を踏まえた計画としています。</p>	【その他】
全体	<p>建設後長期を経たとは言えない庁舎、その地下部を中心に大被害発生となった。自治体の中核施設としての庁舎建設その内容は適切なものであったか。この反省・総括に全く触れていない。その上での今回の計画提示に疑問を感じる。</p>	1	<p>新庁舎建設事業完了後の令和2年6月に国の浸水対策ガイドラインが策定されたことから、ガイドラインに準じた浸水対策には対応できていませんでした。</p> <p>今回の教訓として、国の基準(153 mm/hr)を上回る降雨があった場合でも、庁舎機能を継続できるよう国のガイドラインに適合した対策を行うことを基本として、有識者の知見による検討を行い、その結果を踏まえた計画としています。</p>	【その他】
全体	<p>今回の溢水は人災と言われても仕方がない状況である。ネガティブレガシーとして9月8日を【教訓の日】と定め職員全員に毎年教育を行い後世に伝えていくことが重要ではないか。第4回日立市新庁舎建設市民懇話会(2012/7/6)川の深さを、3.3mあるから十分と説明しているが、実際の深さは2.2mである。誤った資料が作成かつそのまま説明されるという体制に問題がある。</p> <p>2023年3月に公表された日立市内水浸水ハザードマップでは、庁舎西側浸水深さ1～2mであったにも関わらず6ヶ月間会議のみで、何の対策も取っていない。応急対策として土のうを積む等の対策は可能であり溢水は防げた。</p>	1	<p>令和5年台風第13号による被害を教訓として、国の基準(153 mm/hr)を上回る降雨があった場合でも、庁舎機能を継続できるよう国のガイドラインに適合した対策を行うことを基本として、有識者の知見による検討を行い、その結果を踏まえた計画としています。</p> <p>また、業務継続計画の一環として、水害発生時の職員等の行動について定期的に訓練を実施していきます。</p> <p>なお、第4回日立市新庁舎建設市民懇話会で提出した資料の断面形状は、河川合流部ではなく旧庁舎脇のものです。</p>	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
P62	電源設備エリアへの浸水は、地下駐車場入口部からで、壁構造がコンクリート製ではなく鉄柵であったことが理由である。庁舎建設当時 SANAA 設計のパース図では、コンクリート製に見えるが、実際の設計では鉄製の柵であるとのこと。その為、今回、追加工事としてコンクリート及びアルミパネルで止水壁を設けることになり費用が発生している。誠実に欠ける業者は排除すべきである。	1	<p>庁舎の地下が浸水した主な要因は、河川から溢水した水が、地下進入路の正面入口から大量に流下したことによるもので、鉄柵であったことが根本的な原因ではないと認識しています。</p> <p>庁舎建設に関する実施設計の内容は、市と設計者が協議のうえ決定しており、設計どおりに施工された建物です。</p>	【その他】
全体	溢水ありきで、止水壁を設置するようだが、これでは災害時に市民の避難所にもなり得ず、防災拠点としての役割も果たせない。更に、近隣住民は被害にさらされるのを免れない。その場しのぎの応急処置の感が拭えない。(再検証すべき)	1	<p>気候変動の影響により降雨量の増大が懸念され、水害リスクが高まる中で早急に水害を軽減する対策を実施する必要があります。</p> <p>本計画は、浸水状況・原因の分析及び安全対策の妥当性について、有識者による客観的な評価を行い策定しました。</p>	【その他】
P8～9, P58	<p>「数沢川、平沢川が過去に一度も氾濫したことがないことから、浸水の危険性が低い場所と判断」とあるが、東日本大震災で想定外のことが起きているのを体験してるはず{福島原発被害等}。この場所は沼地で条件が悪いことを関係者は認識してると思うが、万が一と考える人はいなかったのか。数沢川、平沢川が合流してるが、分流して庁舎を避けるとか、現在の安全対策計画等に近い考え方を提案した方はいなかったのか。</p> <p>当時の判断が間違っただけだから、統括して反省して責任の所在をはっきりしたうえで、安全対策計画を提案すべきである。防災に強い新庁舎を建築したばかりで莫大な費用を追加投入するのだから。</p>	1	<p>今回の教訓として、国の基準(153 mm/hr)を上回る降雨があった場合でも、庁舎機能を継続できるよう国のガイドラインに適合した対策を行うことを基本として、有識者の知見による検討を行い、その結果を踏まえた計画としています。</p>	【その他】

ページ	意見の概要	意見数	市の考え方	反映状況
全体	降雨量について、早期に予知することが大切と感じた。	1	気象庁が発表する気象情報等を早期に収集・活用できる体制を整え、迅速に庁舎周りの止水板等の設置作業を完了させるよう、業務継続計画に定め、実施していきます。	【参考】
	その他（意見募集の趣旨と異なるもの）	2	—	【その他】

以 上